

脆弱性評価等に基づきハード・ソフト両面での課題を網羅的に抽出

- 脆弱性評価のプロセスにおいて、防災・減災にかかる取組の状況などの調査を行い、課題の分析・評価を実施した。さらに、ハード・ソフト両面での施策を検証し、優先的に取り組む施策抽出も行った。
- これらの結果を踏まえ、災害協定や防災備蓄などのソフト対策、非常用発電装置などのハード対策の整備の検討を進めることとなった。

KPIの設定による効果

- 推進方針の検討の際には、それぞれの目標に対してKPIを設定した。その中で、災害協定の締結数や防災備蓄品の状況、避難所機能の状況などを取りまとめた。災害協定については、策定当時は締結数が12件だったが、その後毎年1件ずつのペースで協定の締結数を増やしている。
- 非常用発電機については、設置台数から連続稼働時間などを把握することで、避難所機能の確保に関する課題を見出すことが可能となった。
- KPIを設定することにより、目標達成のために何をどうしなければいけないのかを明確にでき、KPIの実現に向けて、具体的な成果も得られている。